東京高連ニュース

発　行
東京高齢期運動連絡会
電話03(5956)8781
FAX03(5956)8782
em:tokyo.koureiki@gmail.com
発行人：菅谷正見

【日本高齢者大会in京都】受付を始めました

早目の参加申し込みお願いします

7月26日の高齢者大会東京実行委員会での第35回京都大会の大綱確認に基づき、京都大会への参加申し込み資料を、各団体・地域に発送しました。

発送された文章は次の通りです。

①京都大会のチラシ
②参加要項
③参加申込書
④移動分科会の申込書
⑤講座、分科会の会場一覧
⑥参加費の納入について

参加申し込みは整理の都合から23区、三多摩を分けて受け付けます

○23区の団体・地域・個人は、東京実行委員会（東京高連事務局）
○三多摩の団体・地域・個人は三多摩実行委員会へ

なるべく、9月22日の第一次集約までに申し込んでください。

詳細は、各団体に送付された資料を読んで、間違いのないようにお願いします。

東京から350名の参加を！

○1泊2日の全日程を団体で行動するAコースに150名
○1日目はAコースと一緒に行動し、2日目の全体会後は「自由行動」で参加するBコースに250名の、350名の目標を達成したいとおもいます。

長びくコロナ禍で様々な困難や不安などありますが、現地実行委員会では、コロナ対策には最大の注意をはらい、準備をしていますので、東京実行委員会でも、最大限の努力を傾け、京都大会を成功させたいと思います。

東京実行委員会でも、これまでの参加実績などに基づいて、各団体・地域に取り組みの要請と取り組み状況をうかがいながら、参加の取り組みを進めます。

東京からの取り組み報告を

現地でも、東京各地の活動を紹介し、参加者が参加する各分科会でも、大いに発言し、全国の実践から学んで、高齢期運動の一層の前進と発展のために貢献できるようにしたいものです。

第1分科会は、東京が担当

とくに、第一分科会「これからの社会保障の運動をどう進めるか？全世代型社会保障との闘いの課題」は東京が担当しますので、各団体・地域に発言要請などもおこないます。その時は積極的なご返事をお願いします。

各団体・地域へのお願い

①各団体・地域で実行委員会をつくりましょう
参加者を組織する方々のご苦労を、なるべく多くの人が手助けできるように、小規模でも「実行委員会」を作って、多くの仲間に呼びかける取り組みと宣伝をお願いします。
②カンパ活動にも取り組みましょう
個人の参加費用を少しでも少なく出来るよう、代表派遣カンパなどに取り組み、より多くの人が参加できるように努力しましょう。

【細かい点、いくつか】

①全体会と、講座・分科会のうち第1講座、第1分科会はオンライン参加が可能です。
②参加申込書には、移動分科会を除いて「参加予定講座・分科会」を表示する欄がありませんので、会場への連絡バス運行の都合から、申し込み受付以降に「参加希望」をお聞きするかもしれませんので、参加予定を考えておいてください。

憲法違反の国葬反対!!

国葬より、物価高、コロナ対策に力を入れてください

10月1日からの75歳以上の医療費窓口負担2倍化許さない！

各地域で精力的な宣伝行動

政府が10月1日に75歳以上の医療費窓口2倍化を強行しようとする中、各地に抗議の行動が広がっています。8月25日、中央社会保障推進協議会、医療団体連絡会議、全日本年金者組合、日本高齢期運動連絡会のよびかけで、17時からお茶の水駅頭で75歳以上の医療費窓口負担2倍化中止を訴える宣伝行動が行われ22人が参加しました。

蒲田駅西口での宣伝　（9月4日）

9月4日、蒲田駅に、大田区の社会保障推進協議会、生活と健康を守る会、区労連、新日本婦人の会、年金者組合、城南保健生活協同組合、城南福祉医療協会、などから35人の仲間が集まり、宣伝行動を行いました。

道行く人との対話もあり22筆の署名が集まりました。

宣伝には日本共産党の区議会議員も駆けつけました。

9月6日、阿佐ヶ谷駅では、中央社会保障推進協議会など中央団体と、杉並区の、社会保障推進協議会、東京土建、年金者組合、東京西部保健生協などから30名が集まり、宣伝行動を実施。27筆の署名が集まりました。

9月9日には、台東社保協が呼びかけ入谷に40名が結集、9月10日には江東区で地域の仲間による宣伝行動が取り組まれ、医療費窓口負担2倍化反対を訴えました。

阿佐ヶ谷駅南口での宣伝　（9月6日）

2倍化中止の運動を最後まで全力で

75歳医療費2倍化は、財界・自公政権が強行しようとしている「全世代型社会保障」路線の重要な一歩です。「医療にかかるな・介護を受けるな・死ぬまで働け・負担はふやすが国は社会保障に責任はもたない」これが全世代型社会保障の本質です。

厚生労働大臣(当時)は、「これで終わりではない！さらなる改革が必要」と言っています。

私たちが黙っていれば、政府は更なる負担増へ突き進みます。さらにその先には、全世代の社会保障が総崩れとなる未来が待っています。いま立ち上がらなければ、悔いを千載に残すことになります。

「2倍化中止せよ！」の運動を最後まで全力で展開しましょう。運動を全世代型社会保障路線ストップ、新自由主義ストップの大きな流れに発展させましょう。

9・25新宿大宣伝
10・1新宿デモに結集しよう。

9月21日(水)13：30から、参議院議員会館B108会議室で、2倍化中止署名の提出集会が行われます。集まっている署名は各団体で集約を進め、提出集会に集中して下さい。

9月25日(日)17：00～18：00、新宿東口アルタ前で大宣伝行動を行います。

10月1日(土)には、13：30新宿東口アルタ前に集合し、14：00から西口→南口→明治通り→靖国通りと、新宿駅を大きく一周する抗議のデモ行進を行います。

これらの行動への大きな結集を呼びかけます。

75歳以上医療費 2倍化許さない!!
10・1新宿デモ

75歳以上医療費 2倍化許さない!!
9・25新宿 大宣伝行動
17:00～18:00 新宿駅東口

地域からの報告

杉並社保協、岸本新区長と懇談

8月4日、新区長に申し入れていた杉並社保協との懇談が実現しました。予定の倍の1時間の懇談は有意義なものでした。

区民が推薦し、現役の区長を187票差で制して選出された新たな女性区長が全国的に注目を集めている杉並区。

岸本区長は区民本位の行政を行うことを明言しました。オランダやベルギーなどで水道事業の民営化などを追いかけ、世界中のネットワークで再公営化の実現に尽力してきたNGOの役員を4月までやっていた岸本さんを区長候補として押し上げ、実現してきたことがなによりすばらしい選択と言えます。

岸本区長との懇談は1時間に及びました

新区長は区民の意見をよく聞き、実情を把握し、市民目線で慎重に検討し、熟議した上で判断するという姿勢を打ち出しています。

また9月5日の記者会見では、区民施設の活用については使いやすい費用もめざし前向きに検討すること、女性の活用を広げること、旧統一協会などのカルト集団とのかかわりを拒むこと、区長の退職手当を引き下げることなど、生活者に寄り添う姿勢を打ち出しています。

その区長の政治姿勢に共鳴し、「安心して住み続けられるまちづくり」を進めるという目標の実現に協力・サポートすることを表明しました。区民目線で杉並区の現状と問題点について知らせるために意見交換を行いました。

まず、杉並区の現状と問題点・・

住民の視点から意見を述べました。

1）区長に協力し、住民参加のまちづくり、安心して住み続けられるまちづくりを進めたい。

2）杉並区の「一人ぐらし発生率」と孤立・・・発生率の高さは大都市の部では全国で11位が杉並区。孤立の危険、孤独死が今後激増する可能性がある。老人会の参加率は23区で最低。

一方、「福祉のまちづくり杉並」で購買生協、医療生協が区と協定を結び見守りにとりくんでいる。

3）高齢者のきびしいくらしは他区とも大きな違いがない。

4）コロナの現状と医療のありかたについて要望した。

保健所の機能が統合され、人員も削減・集中され、危機に対応できていない。職員も疲弊しており、人員の充実が求められている。国、行政の支援必要。

5）国民健康保険の高い保険料、滞納、差し押さえなど課題山積。

区の基金をとりくずしても保険料を引き下げなければ、滞納や受診の手遅れなど避けられない。保険料の減免に関して提案を行いました。

6）介護問題、介護保険の抜本改善

介護保険は保険料が天引きで徴収される。利用料が高額であるため利用できない人も多い。「介護の社会化」は程遠く、介護問題は山積している。

高齢者、介護者・家族の声を聞き安心できる介護の確立に努力されたい。

7）老人医療無料制度を実施されたい。

無料化だけでなく、健康づくり、予防など総合的な対策と共に医療費無料を実施すれば、高齢者の人権を守り、健康なまちづくりと医療費の節約両立可。

区が決断すれば実施できる。

沢内村のような「生命行政」を追求し、全国の自治体と連携して高齢者も安心して暮らせる杉並をめざして区長と対話を重ねていきたいと思います。

（吉岡）

東京高連年会費・今年度分未納方は早めの納入お願いします　あわせて、「財政活動支援」も宜しくお願いします

あと4カ月で、東京高連会計年度が終わります。今年度会費未納の方は、よろしくお願いします。

先のニュース61号で、東京高連の財政確立のために「ピースタイル」1枚1500円でお願いしましたが、現在まで申し込みがありません。

この件も宜しくお願いします。ニュースをご覧になっていない方には、連絡があればお届けします。東京高連事務局まで連絡下さい。

日野市で補聴器補助制度 少しずつ前進

市が来年度に向けて、準備を表明

21年9月に日野市の住民から、補聴器補助についての請願署名が提出され、議会で全員一致の採択となりました。

22年の3月と6月の議会で、野党（共産・無所属）議員から質問が出され、市側は22年度を準備期間とする旨の答弁がありました。

市側はその後、包括支援センターを会場にして、補聴器業者を呼んだ相談会を3回ほど開きました。

これまでの市の対応のなかでは「日野市立病院の協力も得て」との話もありましたが、あいにく病院の言語聴覚士が産休に入り、なかなか適任の方が居ないので（全国的にも言語聴覚士は少ない）困っているとことや、「補助に所得制限をつけるかどうかの線引きも考えなければ」などの話も出ていました。

9月6日の市議会で共産党議員の「制度立ち上げの状況について」の質問が再び行われました。

①早期発見のための機会を市としてつくれ。
②補助金制度だけでなく、現物支給制度も考えているか。
③所得制限をゆるいものにせよ。
④言語聴覚士を市でも確保せよ。
⑤医療機関との連携によるアフターケアも必要ではないか。等々の質問に対して市は、高齢福祉課参事と最後に市長が答弁に立ちました。

①アフターケアについては検討してみる。
②23年度のいつ頃から施策がスタート出来るかは、直ちに答えられない。
③言語聴覚士の市としての確保については困難。
④都の補助金支給等の制度は知っている。都への様々な要望は出していく。
⑤65才以上を対象者と考えている。

との答弁がありました。

自治体要求全都共同行動

今年は全地域で取り組みを！ 東京高連のデータも参考にして下さい

各地域で、自治体要求の取り組みが始まっています。世田谷区では区の財政についての学習に取り組んで、区との話し合いに臨んでいます。

すべての地域で取り組みを進めましょう！

（1）高齢期要求をまとめ、自治体に要請し、回答を求め、市と話し合い、21年からの市民の取り組みでは、年金者組合日野支部も参加して、力を尽くしてきました。

今後、市の対応をさらに前進させ、三鷹市に続いて成果をあげたいものです。

各自治体でも、住民の声をもとに、粘り強い取り組みを進めていきましょう。

21年からの市民の取り組みでは、年金者組合日野支部も参加して、力を尽くしてきました。

今後、市の対応をさらに前進させ、三鷹市に続いて成果をあげたいものです。

各自治体でも、住民の声をもとに、粘り強い取り組みを進めていきましょう。

要求の実現をめざすこと、（2）自治体に、高齢期に関する行政データを問いあわせること（自治体アンケート）が、全都共同行動の2つの取り組みです。

今年は、すべての地域で取り組みを成功させましょう。

東京高連のホームページを参考にしてください

「京高齢期運動連絡会」で検索すると、東京高齢期運動連絡会のホームページが出てきます。

その中に「自治体要求運動」のページがあります。このページから、つぎのようなデータが見られます。ぜひ、地域での運動の参考にして下さい。

①今年度の行政データ問合せ(自治体アンケート）の記入用紙
②地域で要請書をつくるための参考資料
③建交労の自治体への要求
④都内各自治体の補聴器助成制度の一覧
⑤各地域で自治体に提出した要請書や、コロナに関する要請書、地域の高齢者の要求集約のために使ったアンケート用紙などが見られるページもあります。
⑥２０１９年度から昨年度までの行政データの問合せへの回答を年度ごと、自治体ごとに掲載したページもあります。ぜひ運動の参考にして下さい。

○逐次更新をおこなって、自治体要求運動のためのデータを、さらに充実させていきたいと思っています。ぜひご協力下さい。

改憲発議と 大軍拡やめろ！ さようなら戦争 さようなら原発

９．１９大集会

9月19日（月・祝）午後13時30分～
場　所：代々木公園Ｂ地区

主催：「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」